

AMUSEMENT SQUARE stage

演劇空間スペースベン

人生いろいろ

〈文・田中 勉〉

人生どんな幸せが待っているかわからない。

優しい人とめぐり会って一緒になるのもそのとおりだろうし、自分と合わないと思える人とめぐり会うのも幸せなのかもしれない。問題は、何をもちて自分を幸せと感じられるのかということかも知れない。

優しい人々と付き合っているといつの間にか、自分が優しくなれるような気がし、トゲトゲしい人々と付き合っていると、いつの間にか、自分がトゲトゲしい人になつてしまふような気がするの一般的ななのである。

昔から、類は友を呼ぶという諺があるが、果たしてそれは、公平な目で世の中を見ている言葉なのだろうか。

ちょっと違うが、同じように、健全な魂は、健全な体に宿るといふ人もいる。

五体満足な健康な肉体を持ち、小学校からタバコを吸い、問題児とされる子ども達には、同じ様な仲間ができるということか？

生まれた時から障害を持ち、どこかしら病気を抱えた子ども達には、同じような仲間しか出来ないということか？

そこには、どこかしら閉鎖され

た社会しか許されていないようなイメージを受けてしまふ。

そんな事は、思つてなんかいないと言ふ方は多いだろう。

しかし、現実社会で起こっていることは、どうだろうか。

家庭内での教育も出来ずに、学校のせいにする。集団生活というもの大切さを表に掲げ、自分の子どもの様も出来ない。そういうものの中から、今、問題になっている少年問題の全てが発生してきているとは思われないが、少なからず、育てる立場の者が弱体化していることは否めないのではないか。

親の顔色を見て育つ子どもは、ロクな者にはならないと言ふ人がいる。果たしてそうだろうか？

親の威厳があるとは、今の世の中思つてもいないが、親の顔色を見て状況を判断できない奴は、社会に出ても常識がなく、それこそ社会の中で適応できない人間が多いということを考えれば、顔色を伺う奴、万歳である。

考えてみれば、世の中に反発する人間、迎合する人間、それぞれに人の顔色を伺う達人なのかも知れない。

なぜならば、第一印象で判断で

きる能力、それこそが、今の世の中で求められている能力の一つだからなのだと思う。

人と付き合う中で、第一印象を決めつけ、自分の世界を狭くしてしまうのはナンセンスだと思ふ。

しかし、逆に言えば、第一印象で人を見抜く能力、年に関係なく、理屈ではなく、自分の味方になり得る人間か、敵になる人間かを見抜く能力、ひいては社会のためになる奴かどうかを見抜く能力は、本能にも近い、するどい目を忘れずにいる能力なのではないだろうか。

誰かが何処かで悲鳴を上げ、いつもどこかでSOSの信号を打ち上げている今の世の中、そのどれもに付き合おうという気はさらさないが、せめて自分の周りの人間が送り続けるものは、見逃さずに受け止める柔軟性は失いたくない、と同様に世界の悲鳴は見逃したくないのである。

煩わしい人間ほど、いとおしいと思うのは、演劇的発想なのだろうか。

現在、「21世紀まつりプロジェクト」なるものが行われている。

平成10年度に行われた、青森県文化観光立県宣言なるもののイベントが、今年は東京ドームで開催

されたいが、それに変わるものとして、青森市、八戸市、弘前市の3市の商工会議所が事務局となり、新しい祭りを創りあげようと

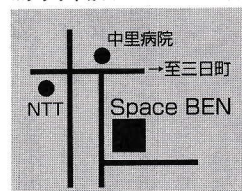
7月のFriday Amusement Negative Shop

- 7日 第335回
未 定
- 14日 第336回
未 定
- 21日 第337回
安達良春 タイトル未定
- 28日 第338回
未 定

FANSの公演予定は、インターネットでも公開しています。

スペースベンホームページ
URL http://www.hi-net.ne.jp/bunkakk8/SpaceBEN/sb_0000_top.htm
e-mail: bunkakk8@hi-net.ne.jp

※全て午後7時30分～、料金500円
※チケットはスペースベンにて販売



駐車場はございませんので、車のご来場はご遠慮下さい。
(近くに西町書店駐車場有り)

問 スペースベン
八戸市柏崎1-11-8
☎FAX 43-9876

FANSの番組につきましては、デリー東北の「あすのメモ」「きょうのメモ」欄でご確認下さい。

FANSでは、役者、スタッフ、その他何でも、何かを表現してみたい人を募集しています。ご遠慮なく、ご連絡下さい。

するものである。

第9回となる、札幌でのYOSA KOIソランの、柳の下での3匹目のドジョウを狙ったものではないが、地方分権と東北新幹線が現実のものとなり、なにかアクションを起こさなければという危機感があるのは事実である。

先日、札幌で開催されたYOSA KOIソランも観に行き、凄まじい熱気を感じた事も事実であるし、始めた発想の斬新さにも感嘆させられた。

しかし、何かを始めた時点で、

それは古くなってしまい、今、次

を考えている人たちは、YOSA KOIでは出来ない次の事を考えている。

それがいいことかどうかは分からないが、常に勝ち続ける能力は何かと問われれば、世の中変わり続けていると認識できる能力ではなからうか。

私自身も、その事は忘れたくないと思つていて。

昔の財産で生きていようという、現状維持は後退にしか過ぎないの